



ラディッシュ (アブラナ科ダイコン属)

ラディッシュはダイコンの仲間で、欧州系の極早生種です。根部は小さくて球形や細長い形で色は白、赤や紫色があります。別名をハツカダイコン (二十日大根) というように、適期には1カ月程度で収穫できます。

中間地ではほぼ周年種まきができます。種は少なめにまくか、間引きを早めに行つて発芽時の軸の伸び過ぎを防ぎます。

【品種】 代表的な品種は、早生で赤丸の「ニューコメント」(タキイ種苗)、紡錘(ぼうすい)形で紅白の彩りの「紅白」(サカタのタネ)、太さ1cm程度の白色細長のミニダイコン「雪小町」(サカタのタネ) など、かわいらしい品種がたくさんあります。

【種まき】 条間15~20cmのまき溝をベッドに直角方向に切り込みます。まき溝は木板を土に押し付け、溝を付けると深さが一定になります(図2)。種が重ならないように1cmくらいの間隔でまき、土を薄くかぶ

図1 畑の準備

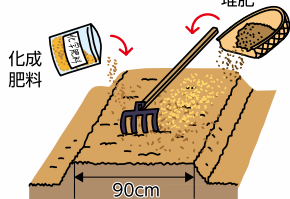
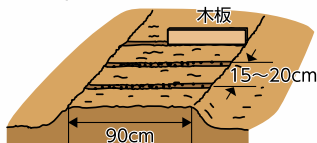


図2 種まき



せませす。その後、乾燥や強い雨を防ぐために、べたがけ資材で覆います。

【間引き】 初め(図3-1)は本葉が見えた頃に重なっているところを抜き取ります。その後(図3-2)、葉が触れ合う程度に間引きをし、最終的(図3-3)に10cm間隔にします。最後の間引きのときに1平方m当たり化成肥料30g程度を条間にまき、根元に軽く土寄せします。

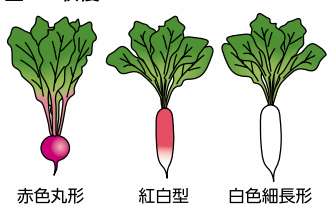
図3 間引き



【病害虫の防除】 アオムシやコナガの被害から守るには、べたがけ資材や防虫ネットの利用が有効です。種まきから収穫までネット被覆しても良いでしょう。

【収穫】 肥大が進んだ株から順次収穫します。赤色丸形の品種では直径2、3cmが適期です(図4)。育ち過ぎるとスが入ったり(中心部に空洞ができる状態になること)、球に亀裂が入ったりします。

図4 収穫



※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春どり		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
初夏どり				○	○	○	○	○	○	○	○	○
秋どり								○	○	○	○	○
冬どり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○ 種まき    ● 収穫    □ トンネル被覆



ラディッシュは小さな球体のため、プランターで育てる場合も深さをあまり必要とせず、ベランダなどの小スペースで栽培することが出来ます。

他の野菜と比べて短期間で収穫できることもあり、家庭菜園初心者にもおすすめの野菜のひとつです。

◆水やり

発芽するまでは土の表面が乾かないように水やりをしましょう。畑の場合は自然の降雨で足りるので、基本的に水やりの必要はありません。プランターの場合も、発芽するまではしっかりと与え、その後は、土の表面が乾いたら、プランターの底から水が流れ出るくらいたっぷりと水を与えます。

◆追肥

ラディッシュは収穫日数が少ないので元肥のみで生育します。あまり肥料を与えすぎるとアブラムシが寄ってきやすくなります。肥料を施す量には注意しましょう。

JAグリーン津店が  
ラディッシュの  
栽培のポイント  
教えます!

JAグリーン津店  
店長 松井 茂樹